

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276700222		
法人名	有限会社 スリーエス・いわた		
事業所名	グループホーム 苦楽舎		
所在地	静岡県磐田市勾坂上234-1		
自己評価作成日	平成25年2月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&IjgvosyoCd=2276700222-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 システムデザイン研究所		
所在地	静岡県静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の事を第一に考えホーム理念である「穏やかで心休まる生活の提供・笑いと楽しみのある生活・ゆっくりリズムの自分らしい生活」をモットーに支援させていただいているホールは日当たり・風通し良く揺ったりとしている。一人1人の空間もありゆっくり寛げるホームが田園地帯にあり、散歩などゆっくりできて季節ごとの花などが一年中楽しめます。従業員がのびのびと仲良くすることにより、利用者さんの笑いがある心豊かな生活に繋がる。地元のお野菜も食べれますよ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

磐田原台地の裾野に広がる田園風景の中に事業所は立地しています。経営母体が変わって3年目、地域の祭りが縁となって自治会との結びつきが深まっていることは、近隣からの様々な協力の申し出からも覗えます。四季折々の花を窓から楽しめるようにと、専門業者に花壇の維持管理をしてもらっていて、利用者は花に囲まれた穏やかな生活を楽しむことができます。また、2週間に1度、利用者が生け花を楽しみ、それをデッサンする利用者もいて、花で暮らしが彩られています。職員と利用者の年齢も近く、スムーズな会話が出来ていて、花と共にゆっくり穏やかな生活が叶っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	努めています	理念の趣旨である「ゆっくりリズム」が各所に掲示され、常に職員の目に止まるようにしています。毎月の全体会議では、経営者から冒頭に理念の説明があり、共有に努めています。職員の離職率も低いいため、浸透度合いが深まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方や、地域の小学生が訪問してくれました	地元の小学生約20名が来設し、歌や演奏の披露し、折り紙やゲームと一緒に楽しんだという日もありました。また、中学生が3名ずつで2日間の職場体験が定着しています。公民館祭りには、貼り絵、書道、絵画を出展し、励みになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	努めています	町内会長、民生委員、包括、市、家族、地域代表では大家さんが毎回参加し、2ヶ月に1回開催しています。事業所の課題点についての相談し、またその意見もらえるなど、運営推進会議が貴重な意見交換の場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者福祉課の担当者とは連絡を取り合っています	運営推進会議には市担当者とは包括が参加しています。毎週市役所にも顔を出し、意図的に話あう機会を設けています。介護サービス事業者連絡会にも頻回に参加し、またケアマネージャーもキャラバンメイトとして市と連携もっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っています	人員配置の関係で見守りが出来ない場合のみ、家族の了承を取って玄関施錠を行っています。外部研修にも参加をしていて、全体会議でスピーチロックなどについて、話し合い共有化に取り組んでいます。また、重要事項説明書の中で、「一時性」「切迫性」「非代替性」について明記しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最低月に一回は職員会議(勉強会)を行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見要望等が気楽に言ってもらえるよう、信頼関係を築けるよう努めています	運営推進会議で家族意見が聞けているほか、面会時にも代表やケアマネージャーが丁寧に話を聞いているため、本音が聞けています。運営推進会議を家族会に準ずるものとして位置づけていて、会議参加の案内を全家族に出して募っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を行っています	月1回の会議では職員意見がよく出ています。定期的な個別面談はありませんが、随時職員と面談を持っているため意見が出やすい環境にあります。職員意見から、嚙下体操が採用されるなど、改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の絆を築けるよう努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	同上		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	努力しています	アセスメントで利用者の生活歴なども把握しているため、絵画、書道、生け花などの趣味の継続を効果的に支援をしています。利用者は馴染みの美容院や買物にも付き添ってもらうなど、代表を息子のように頼りにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲間意識が高まるよう常にリクレーション等行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努力しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様のご意見等もお聞きしまして出来る限りのご希望にお答えするよう努めています	担当者制を敷いていて、利用者への細やかな気付きを重視しています。意向や思いは利用者別サービス記録に記載され、利用者がつけている日記の中からも汲み取ることが出来ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々にファイルを作成し把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表を作成し把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	努めています	申し送り時に時間を掛けて担当者会議を行い、分かり易くした利用者別サービス記録と、通院及び健康の綴りに記録を落とし込んでいます。ケアプラン見直しは半年に1度行い、ケアマネジャーがモニタリングからプラン作成まで取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にファイルを作成し把握に努めています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	努力しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の利用病院を把握し支援しています	協力医はCTまで設備していて、代表が受診支援しています。医師ときめ細やかな連携が図られているため、殆どの利用者が以前からのかかりつけ医から事業所の協力医に替わっています。現在は地元の眼下専門医へも代表が介助しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	努めています	重度化から看取りに至った実績が1件あります。今後も協力医と、家族を含めた連携で取り組む考えがあります。また、入所契約時に事業所のできること、できないことを家族に話していて、合意形成ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に風水害のマニュアルを新しく改訂し防災訓練を行っています	地域の防災訓練には職員が参加し、近隣からは協力もいただける関係作りができています。防災マニュアルを簡潔にまとめていて、スプリンクラーの設置や備蓄もあり、また近隣の福祉施設の防災訓練にも代表が参加し、有事に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っています	自分の居室にトイレの設備があるため、他人を気にしない排泄でプライバシーが確保されています。利用者の尊厳を守り、誇りを損ねないサービスに取り組んでいて、利用者に対して馴れ合いに陥らない方策として、接遇の研修を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っています	食材は外注から届いていますが、食事は調理専門スタッフが作っています。建物の間取りの構造上、利用者が料理作りへの手伝いはできにくい面が否めませんが、里いもの皮むきなどには、以前の機能の発揮があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っています	生活上の排泄パターンを把握し、声掛けなどで、出来るだけ自分の居室のトイレでできるよう取り組んでいます。夜間の排泄にはベッド足元のセンサーマットを活用し、個々の状態に合わせた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	努めています	週2回の休湯日を除いて1日に3名入浴を目標に、2～3日に1回午後に入浴を実施しています。入浴剤は利用者にとっていいものをと、薬用酵素入浴剤を使うようになってから、皮膚疾患がみられなくなっています。隣家のミカンが浴槽に入ることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事ごとをいろんな分野で行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努めています	散歩に出れる日は、近くの川沿いの河津桜など季節の風景を楽しみながら外気浴を行っています。事業所の前は、通学路になっていて、児童との交流風景がみられます。家族と頻回に出かけたり外食に行く利用者もいます。代表の同行支援でキーパーソンと利用者との九州旅行が叶ったこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っています	四季折々の花を窓から楽しめるように、敷地内に咲かせるべく花屋と契約し維持管理してもらっていて、花に囲まれた穏やかな生活を楽しんでいます。利用者が花活けを楽しみ、またそれをデッサンしを楽しむ利用者もいます。次亜塩素酸水の噴霧器で消毒し清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っています	カーテン、エアコン、ベッドが備え付けられていて、居室内トイレ、洗面所があり、利便性と自立性に重点が置かれる仕組みが出来ています。自分の部屋という思いが強く、生活用品の殆どを持ち込んでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っています		